

みどり山防災ニュース

発行：三輪緑山自治会自主防災隊編集委員会

三輪緑山3-1-13 ☎044-987-7495

「じゅんばん・まちかど 防災訓練」の目的

三輪緑山自治会自主防災隊
隊長 柏木正敏

この訓練を消火器の操作訓練と誤解されている方もおられるようなので、その目的を再掲させていただきます。（これまでの参加率が1割程度で、目的が果たせておりません）

（1）災害時の助け合いのことを考え、そこにお住まいの方々が、お互いの顔と名前が一致してコミュニケーションを深めるような「場」を作りたい。

（2）自治会員名簿の21ページに「三輪緑山 防災の心得」を掲載しましたが、この内容を理解して防災知識を深め、充分な「備え」をして頂きたい。

（3）各丁目に1台ずつ「スタンドパイプ式消火器」を設置しましたので、これを見知って頂き、地震時の「防火」や「延焼防止」に関心を高めて頂きたい。この様な趣旨で、自治会の班2つを一回の集まり（小規模）として、都合3年半に渡って「1丁目→2丁目→3丁目→1丁目→・・・」と順番に進めるものです。是非、積極的にご参加下さるようお願い申し上げます。



12月17日、三輪緑山防災訓練を実施しました。今回は、安否確認訓練と災害対策本部開設訓練の2本立てです。安否確認訓練の結果はみどり山NEWSに記載しております。

自治会役員と自主防災隊員で構成する災害対策本部を開設し、それぞれの機能別に訓練を実施しました。災害時に実際的な行動ができるよう、練度向上を目的にしております。

次頁に各班の活動内容と反省を記しておりますのでご一読下さい。



じゅんばん・まちかど防災訓練で
日頃の備えを確認しましょう



各班の訓練と反省

【情報・広報班】 部長 茂木 勝己

午前8時半発災・震度5強を想定し、9時自治会集会所に災害対策本部を立ち上げました。

参集した班員7名は直ちに情報収集活動に入りました。当日の参加総人数は防災隊員53名、自治会員12名、民生委員2名。自治会班長や電話通報からの被災情報を受けて拡大マップやボードに掲示すると共に災害情報連絡票に記入、本部指揮所に伝達し指揮所からは対応担当班への出動が指示され、当該活動終了まで無線で交信が行われました。

①被災情報の掲示や記入法、回覧などに改善余地あり。

②サブも含めた無線習熟者増員の必要性あり。

③各部署間の連携向上のために机上訓練のみでも訓練回数を増やすべきの反省点がありました。

【消火班】 副隊長 五泉 孝

班員は6名が参加し、給食・給水班からの応援3名を得て9名で消火隊を結成しました。

9:20 1丁目で火災が発生したという想定の下、消火隊に出動指示が発令され、直ちに出勤し、9:37消火に着手、9:44無事鎮火しました。

今回は消防署の出動がなかったため放水訓練はできませんでしたが、次の反省点が出されました。

①消火栓のフタが固く開けづらかった。小槌を同時に携帯する必要がある。

②消火ホースの長さが足りない場合近隣の家の庭にホースを通しショートカットする必要がある。

③迅速に消火器を運ぶため、自動車の使用を検討する必要がある。

【救出・護班】 副隊長 田中 英治

班員12名が参集し、給食・給水班3名、民生委員2名の応援を得て、救出訓練と応急処置訓練を実施しました。

●救出グループは、倒壊家屋の梁の下敷きになった被災者(ダミー人形)を、ジャッキ、バール、カマセ木など用いて救出し救護テントに搬送する訓練を指揮者を交代して繰り返し実施しました。

今回、風が強くブルーシートが飛び、テントが倒れそうになるハプニングがあったが、次の反省点が出されました。

①救出初動時、現場が手間取ったことから、指揮者以下総員が役割分担とその行動を再度確認して救出チームとして指揮者の役割や資機材の活用など誰でもできるよう訓練を重ねることが肝要。

②テント、ブルーシートの設置は固定金具を確実に施す必要がある。

●救護グループは、救護テントで負傷者(落下物で頭部負傷、転倒して上腕部負傷、避難中に足首捻挫など)に止血、傷の被覆、負傷部位の固定を目的に三角巾を使った応急処置訓練を実施しました。反省点は、①怪我の手当てをする際、患部を清潔にするための水(バケツ)、タオル、ティッシュ等の備えがない、救急箱と一緒にひとまとめに保管してはどうか。

②救出した人を包むための毛布は訓練時から使った方がよい③テントに付ける看板の文字を大きくして視認し易く目立つようにして欲しい。

【避難・誘導班】 副隊長 武久勝弘

給食・給水班からの応援3名を含めた13名と自治会役員2名の構成で、一般避難誘導グループと避難行動支援グループをそれぞれ立ち上げました。

一般避難誘導グループとは、家屋損壊あるいは危険回避のため一時的に避難場所にお集まりいただいた住民の方々の受付です。そしてもう一つの避難行動支援グループは、避難行動要支援者登録をされ、一人では避難のできない方々を支援するグループです。この訓練では避難行動要支援者宅12軒のうち2軒の安否が不明との想定で模擬訪問し、安否確認プレートと表札の確認を実施しました。なお、このグループでは、搬送訓練を行うため、自主防災隊員(1名)を避難行動要支援者に見立て、車いす搬送訓練も実施しました。

今回の訓練では次回までに改善すべき事項2点を抽出しました。

① 一般避難誘導受付では、情報・広報班と連携した避難者の質問に多くを答えられる工夫の必要。

② 車いす使用時、けやき通り横断歩道付近階段は、難所となる。車いすの通れる、行政へのスロープ幅員確保提案、または迂回路の策定。

【給食・給水班】 副隊長 前田 雅代

地震発生直後の安全確認ができた班員10名は災害対策本部に駆けつけて班長の指示で数名づつ他の班の応援に加わり所定の訓練を行いました。今回のような訓練は2回目という事もあり、夫々が応援に行った先の班で何をなすべきかを確認し、スムーズに訓練に参加することが出来ました。

また、給食・給水班は、1月13日にスポーツ広場で開催されたどんと焼き会場で防災訓練の一環として町田市より支給されたアルファ化米300食で炊き出し訓練をして好評のうちに終了しました。その際、各家庭で備蓄をする啓発のチラシも配布しました。